

東邦大学医療センター大森病院

からだのとしょしつ だより

20号 2017/7/25

【資料の紹介】おすすめの一冊

計算いらず 糖尿病のおいしいレシピ 特定保健用食品と医薬品

河盛隆造監修、牧野直子料理/学研 2017

* ** * ** * ** * ** * ** * ** * ** *

- 糖尿病の食事療法では、エネルギーや塩分のとりすぎに注意が必要ですが、毎日続けていくためには、「おいしいものをちょうどよく食べること」が大切です。
- 本書は適正なエネルギー摂取量に応じて、レシピの分量を2段階にわけてわかりやすく、写真入りで書かれています。
- 献立の組み合わせや調理時間、作り置きできる期間も書かれてあり、献立に迷った時や忙しい時にも助かります。

大田区立蒲田駅前図書館見学会に参加して

2017年6月10日(土)「からだのとしょじつ」ボランティア7名と司書2名で、大田区立蒲田駅前図書館の見学に行きました。

大田区内の図書館には特徴のあるコーナーを作り、課題解決型図書館を目指しているそうです。入新井図書館はビジネス支援コーナー、下丸子図書館は子ども・子育て支援コーナーなどがあります。その中で蒲田駅前図書館は医療・介護情報コーナーを設置しています。図書館入口付近にあるコーナーには医療・介護関係の図書と雑誌を集め、配置していました。資料は約4,000冊で、常に新しい情報を提供するため出版から5年以内のものを購入しているそうです。また利用者にわかりやすいように分類番号のほかに日常の生活で使う言葉が見出しになっていました。利用者が自分で探せるよう細部に工夫しているそうです。



また調べもの相談（レファレンスサービス）のできる個室は、ほかの人を気にせず相談出来る場所で、週に1～2回ほどの利用があるそうです。やはり最新情報を提供するのは大変なようでパソコンやパンフレットなどを使って質問に答えているそうです。

大田区との連携もあり、区が発行しているパンフレットなども多数ありました。講演会やイベントなどの企画も協力しているそうです。

今回の見学会で公共図書館と連携することにより、「からだのとしょじつ」の医療情報が地域に必要とされる存在になっていくのではないかと考えました。蒲田駅前図書館だけでなく、入新井図書館のビジネス支援であればがん患者の就労支援や、下丸子図書館の子ども・子育て支援であれば子どもと病気など、色々な可能性があるのではないかと、そのようなことを思う見学会でした。（Y.O.）





◆なのはな文庫のご案内◆

◇なのはな文庫は、毎週火曜日の午後、おもに病棟のデイルームを巡回して本棚の本の整理をしたり、新しい本を補充するボランティア活動です。

◇一人でも多くの患者さんが、本を読まれることで日々の時間に安らぎと癒しを感じていただけたらと思って活動しています。

◇大田区立図書館からリサイクル本をいただいています。

◆なのはな文庫はこちらで活動しています◆

外来1号館：小児医療センター、産科・婦人科

メンタルヘルスセンター、皮膚科

2号館：整形外科、糖尿病・代謝・内分泌センター

病棟1号館4階、2号館4階から9階、

3号館4・5階、5号館4・5階

6号館1・2階



編集・発行：からだのとしょじつ

東邦大学医療センター大森病院 2号館 3階

開室日時：9:30から16:30 *第2火曜日は14:30まで

第3土・日・祝日はお休み

「からだのとしょじつ」ホームページもご覧ください。

<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/karada/>